

乙女高原が好き！ 2602 号

乙女高原に本格的な花の季節が始まりました。これからは次々とお花のリレーが続きます。遊歩道も綺麗に整備されているので、是非乙女高原に足を運んでくださいね。

ところでみなさん気がつきましたか？今号のニュースレターは記念すべき通算 100 号です。2001 年 5 月に第 1 号が発行されて以来、年 4 回ペースで乙女高原の姿をお届けしてきました。そしてこのニュースレターはその時々乙女高原の記録を残した貴重な報告書でもあるのです。今後もファンクラブみんなの力で、200 号を目指してバトンをつないでいきましょう！

27 回目の遊歩道づくり

～遊歩道づくり 事前準備～

5 月 13 日（水）記事：植原 彰

夏の間、「お花畑」に人々があやまって足を踏み入れないように、遊歩道の両側に杭を打ち、ロープを張るボランティア作業が「乙女高原の遊歩道づくり」です。大勢のボランティアを受け入れる準備作業を 5/13 に行いました。集まったのは市の職員 3 人（観光課）、県の職員 4 人（峡東林務環境事務所県有林課）、乙女高原ファンクラブ有志 11 人、計 18 人です。

作業の流れを全体で確認してから、作業を開始しました。

まず、全員で先日の雷雨の強風で倒れて、遊歩道をふさいでしまったシラカバの大木を片付けました。このシラカバは 2026 年 5 月 1 日に倒れたことがはっきり分かるので、ただ片付けるのではなく、遊歩道脇にわかりやすく置いて、今後、どのようになるのかを「展示」していくことに。展示解説版も付けましたよ。遊歩道「森のコース」の途中にありますから、ぜひご覧になってください。

そこからは分担して作業をしました。

ファンクラブの 3 人にはロッジのホールを中心に、掃除をしてもらいました。ロッジは秋からずっと使っていないので、たくさんほこりがたまっています。それらをきれいに掃除し、遊歩道づくり当日は、ホールで休んだり、お弁当を食べたりできるようにしました。

ファンクラブの残りのメンバーと県職員の皆さんで、分担して遊歩道を歩きました。歩きながら杭の点検をし、使えない杭の場所には長い竹串を目印に刺しました。まだ使える杭は、ロープを張ってもグラグラしないように大きなハンマーでたたいておきました。ついでに、遊歩道に落ちた幹・枝を片付けたり、樹名板の杭をたたいたりしました。

市職員の皆さんでシカ柵をぐるっと一回りし、柵網が地面に接しているところに刺してあるペグがぬけそうになっていないかを確認したり、柵にかかりそうな枝を探して切ったりしました。

途中で雨が降り始めました。すぐに止むかなあと樂觀視していたら、だんだん強くなり、しかも雷まで聞こえてきます。ずぶ濡れになりながらも作業を終わらせました。戻ってきたら、トイレ掃除に合流しました。バイオトイレはともかく、ぼっとんトイレの「大」が汚れていて閉口しました。水をたくさん用意していたので、助かりました。

市職員の皆さんは倉庫のロープを確認し、県職員の皆さんは遊歩道内の看板を水拭きしてきれいになりました。これで今日の作業はおしまいです。

作業を終了させ、市と県の職員の皆さんは、それぞれ職場に戻りました。ファンクラブの皆さんのうち有志が残って、掃除されたばかりのロッジのホールでお弁当を食べながら歓談しました。寒くて、手がかじかんでしまいました。温かい飲み物を用意して正解でした。地面を見ると、パチンコ玉くらいの氷の粒がみるみるうちに増えていきます。ヒョウまで降ったんですね。

本日、市の皆さんが杭 100 本と新しいロープも運んできてくださいました。



明日 5/14 の夜「乙女高原連絡会議(乙女高原の保全や活動について話し合う市・県・ファンクラブの円卓会議)」で最終確認し、5/17「遊歩道づくり」当日を迎えます。たぶん今日と違って、一日「いい天気」です。

～遊歩道づくり 本番当日～

5月17日(日) 記事：植原 彰

5/13 と打って変わって 5/17 は一日いい天気で、標高 1,700m の乙女高原でも暑すぎるくらいでした。

遠くは神奈川や埼玉から大勢の乙女高原ファンが集まってくれます。今回は高校生もたくさん参加申し込みしています。そんな皆さんに、できるだけ気持ちよく作業してもらいたいなあ…と思ったら、朝 7 時にロッジに到着して準備を進めちゃいました。

大勢が参加する活動で、女性トイレが一つだけというのはとても困ります。なので今日だけ、バイオトイレの男女とも女性トイレとし、昔ながらのぼっとんトイレを男性トイレとしました。男性トイレには電気が来てないので、「大」の個室が真っ暗です。これって結構怖いので(「トイレの怪談」を思い出します!) LED のライトを設置しました。ロッジのホール・玄関、倉庫、自分の車から今日の活動で使うものを運び、テーブルの上に整理して置いていきました。途中から今日のスタッフが続々と来てくださったので、どんどん協力をお願いしました。

本日、たくさんの乙女高原ボランティアをお迎えするスタッフは県職員が 4 人、市職員が 8 人、乙女高原ファンクラブ有志が 19 人です。9:00、スタッフ集合時刻になったので、この 31 人で集まって簡単な自己紹介後、打ち合わせをしました。打ち合わせ後、各コースごとに、さらにスタッフ打ち合わせを行い、受け付けを開始しました。

9:30、市観光課長・渡邊さんの司会で「はじめの会」が始まりました。県峡東林務環境事務所長・伊藤さんの挨拶、山梨市長・高木さんの挨拶(メッセージ代読)、そして、植原から今日のスケジュールや注意事項を説明しました。

新機軸で、他己紹介の時間も取りました。「では、これから、今日、お集まりの皆さんをご紹介しますね。まず、株式会社田丸・田丸グリーン基金の皆さん!」田丸の皆さんが元気よく手を挙げてくださいました。「次に小学生!・・・中学生!・・・高校生!」「県外から来られた方!・・・どちらからですか?」「山梨市議会議員の皆さん!(3人、参加くださいました)」「山梨市職員の皆さん!」「山梨県職員の皆さん!」「乙女高原ファンクラブの皆さん!」「・・・今まで手を挙げられなかった方?」作業に移る前に、参加された皆さんが、お互いに、どんな参加者がいらっしゃるのかを知ってほしかったわけです。

はじめの会終了後、株式会社田丸・田丸グリーン基金から乙女高原ファンクラブへの協力金寄贈式を行いました。田丸様は毎年、作業に多数の社員が参加してくださるだけでなく、多額の協力金をいただいております。ありがとうございます。

遊歩道づくりの作業は森のコース、草原のコース、ツツジのコースの 3 つの遊歩道コースごとに行います。それぞれコース・スタッフが音頭を取って、作業を取り仕切ってもらいました。青空の下、たくさんの乙女高原ファンが散らばって作業する・・・時々、あちらこちらから指示の大声や笑い声が聞こえる・・・というのは、いいもんですよ。

作業がつつがなく進んだので、私は和平さん、加藤さんと一緒に遊歩道のロープやシカ柵の扉に看板等を付ける作業を行いました。遊歩道を歩く際は、どんな看板があるかを見ながら歩いてくださいね。じつは全部で 200 枚を超える看板類があるんですよ!!

作業が終了したチームは草原内の若木を切る作業をしてくださいました。乙女高原は草刈りをする事で草原を維持してきましたが、草刈りと同じかそれ以上に大切なのが「木刈り」。草原の中に育ってきた若木を刈らないと、簡単に森に遷移してしまいます。周りの森に飲み込まれるイメージです。事実、約 60 年前に草刈り(＋木刈り)が行われなくなったロッジ周辺は立派なミズナラ林になってしまいました。作業チームの中には作業終了後、みんなで展望台に富士山を見に行ったチームもあったようです。「雲一つない」いい天気だったので、今日は富士山がよく見えたのではないかと思います。



全部のチームが終了したところで「終わりの会」をしました。司会をはじめの会同様渡邊さんです。乙女高原ファンクラブ代表世話人・角田さんがお礼の挨拶をし、同じく三枝さんが諸連絡をしました。

道具等の片付けをしてから、有志でお昼を楽しく食べました。

昼食後、有志で1時間限定の追加作業をしました。遊歩道に取り付ける看板がまだ途中でし、草原内の若木を刈り取る作業も十分ではなかったからです。照り付ける太陽のもと、みんな一生懸命に作業してくださいました。さすがは乙女高原ファンです。

終了後、追加のお茶を飲んだ方もいっぱいいました。水分は十分取ってください。「終わった後はビールがいいね」「車の運転があるからダメでしょ」「今はノンアルもおいしいからノンアルでもいいよ」「次からはペットボトルのお茶じゃなくて、ノンアルコールのビールにしよう!!」という話で盛り上がりました。

ヤマアカガエルの産卵調査

～産卵調査 Ⅰ 回目～

4月4日（土）

記事：伊佐治 庸子

昨年は、信玄公祭り・風の三番隊真田弾正忠幸隆隊の法螺貝侍で出陣していたが、今年は念願の4月の自然観察交流会に参加できた。ヤマアカガエルの産卵モニタリング調査も初めてのことで、卵塊のプニョプニョに触るのをとても楽しみにしていた。ところが4/4が近づくにつれ当日の天候不良の予報に恐れをなした。どうしても雨。朝のうちはなんとか持ち堪えても昼から雨。甲州軍団出陣もなんと気の毒のことか。それよりも自分のことだ。スマホのお天気アプリで乙女高原の気温を探ると6℃。うぇ～(T_T)。さあ、どんな格好をしていこう？最悪雨に打たれながらの湿地帯での調査だ。日中は暖かい日が続き一度は片付けたメリノウールの肌着やダウンベスト、冬用ジャケットを引っ張り出す。ズボンの下にタイツ、厚手の靴下、レインパンツをあらかじめはいておこうか。膝下までの長靴はいて、帽子もレインハットで、これで快適に調査ができるだろう。さあ、結果は？昼前から降り出した雨も何のその。メモは濡れても身体はノープロブレム。但しロジック前の気温計は4℃とやっぱり寒かった。事前準備はほぼ合格だったが、集合場所からは乗り合わせて調査地へ向かうので、やはり乗せてもらった車を汚すのは気が引ける。今日のように足元が汚れそうときは靴に被せるシャワーキャップかなんかあれば良かったなあと思う。今回は乗車中、両足挙げて腹筋を鍛えることにした。

「ヒノキの花粉」

出発後ほどなく、柚口辺りで山がモヤッとしていることに気がつく。心なしか硫黄臭がしたので農家さんが硫黄合剤を散布したかと思ったが、こんな雨予報でそれはないだろうと思い直す。霧？イヤ違う。剪定枝の焼却？そんな場所ではない。よくよく見ると山のヒノキからモワモワモワ～と立ち上がっている。風はそれほどないがまるで湯煙りのように花粉が大量に舞っていた。少し走って山の神まで行くともうモワモワは見られない。あの標高あの時間帯に花粉を飛散させたんだ。雨上がりの翌日の暖かい日に花粉は多いと思っていたが、あの様子を見てちょっとショックだった。

「山の神」

カエル池にヤマアカガエルの卵塊2腹発見。緩衝材のプチプチ似のまとまった一塊が二つ。メス一匹が一腹産むのでここでは二匹が産卵したことになる。ただこの産卵場所が良くなかった。水がほとんどなく干上がっている。このままではこの卵塊はとぼれてしまうか、ヘビやタヌキなんかに捕食されてしまうのだろう。聞けば近くで行われたボーリング調査以降降水が切れてしまったとか。カエルの寿命が5,6年として、この場所で生まれて大人になったカエルがいなくなればもうここでの産卵は行われなくなるのかもしれないなあ。

付近で見たのは、他のスマイレに先駆けて咲くヒナスミレ、下を向いて咲く紫のカタクリ、川の近くでハナネコノメ、食べたらヤバいハシリドコロ。確かにこの暗い紫紅色の花はヤバそうな雰囲気プンプン。当初、お腹を下してトイレに走るからハシリドコロかと思ったら、そんな生易しいもんじゃなかった。食べると錯乱して走り回るからハシリドコロだそう。こ、怖すぎる。

「キブシ」

林道沿いに黄色い花序をたくさんぶら下げているキブシに出会う。どれも同じかなと思ったらそうではなく、黄色い花序になる木と黄緑色の花序になる木がある。黄色はオスの木で咲くのは雄花。黄緑色はメスの木で咲くのは雌花だ。花もよく見るとそれぞれ雌しべ雄しべの形が違う。ちょっとキウイの花と似ているかも。雄花も雌花もそれぞれ雄しべ雌しべがあるが、雄花は雌しべ、雌花は雄しべが退化して、あっても役に立たない。一度観察して意識すると、今まで気づかなかったキブシの存在が林道のあちこちで目に入るようになった。地味によくいる。まだこの時期他の植物に色がないので、キブシの黄色、黄緑色が目立つ。あ、ここにも。ほら、あそこにも。

「モニタリングサイトその1～木道湿地」

木道に入るなり角田さんが腹這いになった。木道下の湿地にサンリンソウを探しているんだとか。落っこちないでよ～。サンリンソウはまだ早かったらしい。ところで○輪草って一体いくつまであるんでしょうね？イチリンソウ、ニリンソウ、サンリンソウ・・・。

乙女高原の湿地帯まで来ると景色にまだ色がない。一帯枯れ茶色で寒々しい。ここでは3/27に見つけた卵塊2腹のみだった。カエル池の卵塊はまだ新しく塊全体がぷっくりしていた。ゼリー状の寒天質に包まれたオタマジャクシになる黒い胚は黒ごま様だったが、産卵から2週間以上経っているこの卵塊はぷっくりからベチャ～に変わり胚はバナナ様だ。手を水に突っ込んで卵塊に触る。ひゃー、水が切るように冷たい。胚を包む寒天質はいくらかだらりとしてきたような気もするがはっきりとは分からない。こんなにじっくり観察すると、しばらくタピオカティーは遠慮したい気分になった。



「モニタリングサイトその2～木橋湿地」

向かう途中マヒワの鳴き声。お天気の悪い中、唯一の鳴き声だ。

底なし沼の湿地を長靴でズボズボ歩くのが怖い楽しい。木橋の橋上・橋下合わせて20腹を確認。6腹、3腹、7腹、4腹と同じ場所にまとまってくっついていて。なぜわざわざ隣に産む？一軒家より長屋住まいが好きなのか。これってやはり集団でいることでリスク分散しているってこと？誰かが食べられても誰かが生き残れば良し。サバンの草食動物みたいに。でもその場所が干上がったら全滅しちゃう。あのカエル池の卵塊のように。

ヤマアカガエルの鳴き声を聞いてみたかった。産卵後、再び冬眠に入ったらしい。本格的な春になるまで二度寝をお楽しみ中だ。年を取って若い頃と違い二度寝ができなくなった私にしてみれば羨ましい限りのヤマアカガエル。でも、寒さ厳しい中一度目覚めて産卵するのも大変かもね。寒い深夜にトイレに起きるようなもんだから。

「モニタリングサイトその3～梨高湿地」

植原さんの後をついて行く。哺乳動物の椎骨？を拾う。軽い！骨粗鬆症みたいだ。ほどなくバレーボールコート大の雪原に出た。水が流れ込み地面表面付近は解け、アイスバーン化した雪原が浮いている感じ。なぜ林の奥のここだけに雪氷が残っているんだろう？陽が当たらないから？見上げると空が見える。真上に木はない。ではなぜ？なぜ？

水の流れのない止水地に8腹確認。さて、ここは一体どこだろう。1人ではきっと家に帰れない。確か植原さんが卵塊確認の場所を地図上に落とし込んでいた。見せてもらおう。「地図を見せてください。」すると気まずそうな顔をしていやいやバインダーをこちらに差し出す。ああ、納得。紙には一本線としゃもじの形の線画、そこに卵塊確認地点が描き込まれていただけ。まるで暗号図。これは植原さんだけが解読できる地図だった。「梨高湿地だよ。」その昔、山梨高校の乙女高原寮があった場所とのこと。「こんなところに歯ブラシがある！」大きな倒木の浅く横に広がった木の根にピンクの柄の歯ブラシがぶら下がっている。よく見るとその柄の紐を通す穴に、倒木のひげ根が貫いて伸びていた。かつてここに泊まっていた女子高生が使っていた歯ブラシだろう。寮で使用していた水の取水タンク近くには、なんとレトロカタカナコカ・コーラ 250ml 缶が朽ちていた。コカ・コーラのカタカナロゴの下に登録商標の文字。赤い色は今のものより濃く暗い。50年くらい前のもの？まるで縄文人の生活痕跡でも見つけたような不思議なタイムスリップ空間だった。



「ヒメツチハンミョウ」

駐車場に戻る途中「あー！」と植原さんの大きな声。たっちゃんが遊歩道の枯れ草の中にいたヒメツチハンミョウを見つけたから。青黒く輝くボディは一見綺麗だが毒持ちだから触らないようにと教えてもらう。春先の草地や道端をのそのそ歩いているらしいので、見つけてもノータッチで観察しよう。

「長靴での歩行」

焼山峠の湿地で卵塊探し。雨も降り出しレインハットで視界も狭小。ちょっと気が緩んだか枯れ枝に足を取られて見事にすっ転んだ。遠くから見ていた植原さんが「大丈夫～？」と声をかけてくれた。それが何とも気恥ずかしい。普段畑仕事で履き慣れているはずの長靴だが、こと山歩き、湿地帯歩きとなると勝

手が違った。とにかく歩きにくい。枯れ枝、石、泥濘み、凸凹、苔 etc .足を上げて歩いていたらつまりましたのにな。両手をちゃんとポケットから出して歩いて良かったよ。両手のひら、両ひざは痛むが顔は無事だった。

「立石神社」

帰路途中、牧丘西保下の立石神社に寄る。ここはこの時期とおきのお勧め場所らしい。まずは拝殿でお邪魔しますのご挨拶。その後は神気に満ちた境内のあちらこちらで皆が夢中で写真を撮っている。カタクリの群生、ミヤマキケマン、コガネネコノメ、シロバナエンレイソウ、タチツボスミレ、シュンラン、イブキスミレ（なんかもうよくわからない）、それから真っ二つに割れた胡桃の殻（リスの食痕）、穴の開いた胡桃の殻（アカネズミの食痕）。角田さんなど眼がキラキラ輝き幸福感があふれ出している。シロバナエンレイソウに出会えたのがよほど嬉しかったようだ。神社を出て川沿いにはバッコヤナギのメスの木。黄色の葯の雄花序と違って地味な淡いシルバーがかった黄緑色が美しい雌花序がたくさんぶら下がっていた。少し雨が止み鳥の鳴き声が聞こえてきた。抑揚のある大きい声だ。鳴きかたは様々で決まったフレーズというよりはバラエティ豊か。あら素敵♡なんて最初は思うが、ず〜っとず〜っと鳴きっぱなし。お喋り奥様の一人井戸端会議だ。こりゃたまらん。畑にいとよく聞くこの鳥はガビチョウ。休むことなくいつまでも鳴いているので、風流をとおに追い越してうるさいと言うもの。もう少し奥ゆかしいほうが好みだなあ。

牧丘の里山は、ソメイヨシノ、シダレザクラ、ヤマザクラ、スモモ、モモ、ナシ、ハナモモ、ミツバツツジ、などなどの競演で雨に煙る中しっとりとして美しい。このおまけ付きの今回の自然観察交流会も、笑顔満載楽しく癒され充実度 120 点満点の会だった。

～産卵調査 2 回目～

4 月 19 日（日） 記事：井上 敬子

4 月 19 日、今期 2 回目のヤマアカガエル産卵調査が行われました。道の駅に集まったのは 4 名、植原さんの車に乗せてもらい、出発しました。最近、暖かいというより暑い日もあったので、産卵はすすんでいるのでしょうか。

まずカエル池と呼んでいる場所で観察。以前は小さな池があつて、産卵が見られたのですが、数年前にボーリング調査が行われて、水がたまらなくなっていました。案の定、池だったところは干上がっています。わずかに湿り気があるところに以前産卵した卵がゼリー状にありましたが、水がなくなれば生きていけないでしょう。残念です。ここでは前回咲いていたキブシは終盤、ハシリドコロはすっかり伸びきって、えんじ色の花をいくつもつけていました。センチコガネがいて、植原さんが手に乗せると指の付け根に潜ろうとしていました。裏は緑、表面は赤い金属光沢できれいでした。

林道の新緑がきれいです。特にイタヤカエデは鮮やかな蛍光色の黄緑色です。濃いピンク色の桜もところどころに咲いていて、オオヤマザクラかなと車を止めて観察しましたが、遠くてよくわかりません。アワブキの葉が出始めていて、真ん中の葉脈のところで二つ折りになってとてもかわいいし、おもしろい。こんな姿をはじめて見ました。道ばたにミヤマハコベらしいかわいい花も咲いていました。

そこから少し進むと、道ばたに色のとても濃いミツバツツジが咲いていて、車を止めて写真撮影。青空に濃いピンクが映えて美しいです。近くに赤みをおびた丸くてかわいいカツラの葉がありました。バナナの形の実の跡も残っていました。



さらに進んで、カツラの大木のある所で観察です。カツラの芽吹きは赤いですが、その色はほんの数日です。でもまだ赤みが残っていました。カジカエデの花が咲いています。えんじ色でかわいい。幼木の花は咲いているのに、老木はまだ芽吹き。若者の方が元気なのかな……。沢の近くまで降りてみました。斜面にはヤマエンゴサク、コガネネコノメ、ニリンソウなどがありました。カツラの木の根元近くには、青空の色を映したようなきれいなフデリンドウがたくさんありました。ここで盛り上がったのはトチバニンジン（トチ）の幼葉、小さいのにトチの葉にそっくり。そして真ん中には花芽もついていました。やはり葉は折りたたまれて出てくるようで、まだ広がっていない細い葉もありました。ハナネコノメはもう終わっていました。斜面を登って戻る途中、ハシリドコロの葉の上にルリシジミの仲間（スギタニルリシジミ）がいます。よく見ると、頭をクモにかみつかれていてもう動いていません。帰宅してから写真を拡大して見たら、クモの背中に特徴のある模様があります。調べたらネコハエトリというクモのオスのようです。ネコハエトリは町中の公園などでよく見かけるといいますが、こんな山にもいるのでしょうか。

さてこの日はヤマアカガエルの産卵調査なのですが、天気もよく、気温もあがってきて、ヒメギフチョウが出てきているのではという話になり、調査は午後にして、ヒメギフチョウの発生場所に行くことになりました。食草のウスバサイシンは葉が出始めていて、えんじ色の花が咲いています。この場所でしばらくヒメギフチョウを待つことにしました。「あっ、飛んでる」の声に「どこどこ？」と私。遠くのほうにチョウがひらひら飛んでいるのは見えたのですが、模様まではわかりません。その後も2頭、場所を少し移動した所で2頭、角田さんを見つけました。合わせて5頭いたことになりませんが、私はそんなに確認できず、残念。その後、ヒメギフチョウの通り道という所で、10分ほど待っていましたが、ここでは出てきませんでした。ヒメギフチョウがいることがわかってよかったです。天然記念物に指定されて最初の春、みんなでヒメギフチョウを守っていききたいですね。

ロッジ前に到着。12時です。いつものことながら、あちこちで道草してようやく乙女高原です。ベンチで昼食を取りました。歩いていると暑いくらいですが、風は少し冷たく、上着をはおりました。植原さんから福知山みやげの「里柿」という甘い和菓子、井上から自家製干し芋が食後のデザート。コーヒーに甘味が合いました。ごちそうさまでした。

午後はこの日の目的の調査です。まず、谷地坊主の湿地。谷地坊主は頭のとっぺんに緑の毛が生え始めたような感じになっていました。前回20腹もあったのですが、今回新しく産卵したものはなし。前回の卵が孵化して、オタマジャクシになって、うじゃうじゃいるところもありました。ロープ状のヒキガエルの卵塊もありました。キベリタテハが飛んでいます。地面にとまって羽根を広げたりしていました。越冬したものでしょう。羽根が痛んでいました。

次に、奥の湿地です。バイケイソウの芽吹きがかわいいです。ここでは新しいものが1腹見つかりました。カラ類の声がよく聞こえます。草原を少し歩いてみました。草原は枯れ野の感じ。キジムシロが咲いているだけで、他は小さな葉が出始めたばかり。マメザクラもまだつぼみですが、蕾の先はピンク色でかわいかったです。

木道の湿地へ下ってきました。ここでは産んだばかりのような新鮮な卵はないのですが、新しく見つかったものが7腹、もうオタマジャクシになっているものもいくつか。これはどういうことでしょうか。2週間前の調査以後に産卵したものがもう孵化してオタマジャクシになっていたということになります。今年は暖かすぎて早めに孵化してしまったのでしょうか。ここでもいくつかヒキガエルの卵塊がありました。木道の入口に小さなサンリンソウが咲き始めていました。

最後の調査地、焼山峠です。ここでは新たに15腹もみつけましたが、あまり新鮮なものはなく、孵化しているものもありました。やはり、この暖かさの影響でしょうか。ヒメツチハンミョウの交尾を見かけました。今年は春が早いので、スマレが咲いているのではと思っていたら、やはり咲き始めていました。ミヤマスマレ、ヒナスマレなどいくつも咲いていました。

下りの林道の途中にあるヒカゲツツジももう咲いていました。上品なクリーム色の花です。自然観察路の入口付近にも何種類かのスマレが咲いていました。フモトスマレ、マルバスマレ、エイザンスミレ、アケボノスマレなどです。

もう観察終了予定時間ですが、塩平集落の手前の伐採地の所も観察しました。ラショウモンカズラが咲き始めていて、マルバスマレ、タチツボスマレがありました。イチリンソウも1本だけですが、咲いていて、葉はいくつもありません。伐採した斜面にはコガネネコノメがたくさんあり、早く植林して日陰を作ってやりたい感じでした。

道の駅まで戻って解散になりました。ヤマアカガエル産卵調査以外にもヒメギフチョウ、スマレ、植物の芽吹きなどいろいろ観察し、充実した一日でした。



訪花昆虫調査

～2026年度Ⅰ回目～

5月26日(火)

記事：植原 彰

高槻さんとそのご友人をお連れして乙女高原に到着したときには、すでに準備が整っていました。早く着いた方がロッジから必要なものを運び出してくれていたからです。今回の参加者は11人。あいさつと自己紹介の後、高槻さんから調査方法を説明してもらいました。植原から班メンバーとルートを発表しました。今回はまだ花も少ないので、参加者は多いですが3班だけにしました。各班3人+訪花昆虫カメラマ

ン+植原です。植原は一昨日来た時に見つけてしまった遊歩道ロープの不備を直すためにフリーにしてもらいました。

それぞれの班で出発です。巻き尺のはじめをペグで地面に固定し、伸ばしていきます。コースの最終地点に着いたら、調査票にコース名や巻き尺の長さを記入して、最初の地点に戻りながら、遊歩道片側 2m 範囲で、どんな花にどんな昆虫が来ているかを記入します。花は種名を記入しますが、昆虫は名前がわからないものがほとんどなので、アブの仲間、ハチの仲間などざっくりした仲間名で記入します。もちろん、名前が分かるものは種名を記入します。最初の地点に戻ったら、今度は遊歩道の反対側を調べながら、巻き尺を置いた場所に戻ります。これで一つのコースの調査が終わり。次のコースの調査に移ります。

このルーティンを繰り返しました。私は、杭と杭の間が離れすぎた箇所があったので、杭 4 本を付けたし、ロープをしぼり直しました。作業が終わったら各班を巡って進捗状況を確認したり、スナップ写真を撮ったりしました。お昼時間の伝達もしました。

お昼はみんなで一つのテーブルを囲んで和気あいあいと食べました。一昨日に採って、アクを抜いておいたわらびをたくさん持ってきたので、それを食べてもらいました。乙女高原産のワラビ、ぜひ食べてもらいたかったんです。自分で言うのもなんですが、アク抜き加減が今回ののはベストでした。

お昼ご飯後、調査を続けてもらい、1 時間後には調査終了となりました。少しお茶を飲んで、解散しました。調査に参加くださった皆さん、ありがとうございました。次回は 6/20(土)です。

乙女高原ではレンゲツツジやアマドコロ、エゾノタチツボスミレやマイヅルソウ、キンポウゲやミヤマニガイチゴが咲いていました。いよいよ初夏です。



【観察報告】

乙女高原に春の訪れ

3 月 27 日（金） 記事：植原 彰

すでに乙ヶ妻のシダレザクラが咲き始めていました。林道では、バッコヤナギ、アブラチャン、キブシの花が咲き始めていました。それにしても、春の木の花って、黄色が多いですね。

今回は 4/4 のヤマアカガエル産卵調査の下調べの意味合いが大きく、まずは元杣口林道入口の湿地を調べました。今年も気配なし。2015 年からずっと産卵がありません。林道脇の「カエル池」も調査。車を降りて、しばらくしたら、クエックエツとカエルの声。近づいて見ると、池は干上がっていて、かろうじて石の奥に水が溜まっています。カエルの声は一匹だけから発せられているようです。必死で鳴いているその声は悲しそうでした。ここでは毎年たくさんの卵が見られましたが、2020 年夏に地面に深い穴を掘るボーリング調査が行われてから、水が抜けてしまうようになり、2021 年から、産卵はされるのですが、卵やおたまじゃくしが干上がってしまい、繁殖失敗しています。

乙女湖に氷はありませんでした。湖面にウグイスが 2 羽浮かんでいます。氷は解けているとはいえ、周囲には残雪も多く、こんなに冷たい水で大丈夫かと思いました。時々、潜水するし。金峰山はまだらに雪をかぶっていました。昨日、甲府盆地の雨がここでは雪だったのでしょう。

木道湿地を調べていたら、なんと卵塊が 3 つ。1 年ぶりに触ってみましたが、このプニプニの感触、たまらないです。木橋湿地の木橋から下は、沢水の水位が低くなっていて、例年、水が溜まって池になるところが干上がっていました。一方、木橋から上はそうでもなく、水をたたえた健全な?湿地になっていました。これなら、今年の産卵は期待できそうです。梨高湿地も健全で、去年よりずっと水が多かったです。このままで推移してくればいいなと思いました。ミソサザイの元気な声が聞こえてきました。



ここでは、なんと雪の上を歩くヒメツチハンミョウを発見。早春と晩秋の短い期間にしか出会えない珍しい昆虫ですが、さすがに雪の上を歩いているのを見たのは初めてです。

草原にもまだらに雪が残っていました。積雪 3cm です。状況から昨日積もったものと思われます。

ロッジのあたりから草原を眺めると、なんか違和感が……。しばらく眺めながら考えて、草原の真ん中あたりに見えるダケカンバの隣のウラジロモミのてっぺんがなくなっていることに気づきました。このモミの木は大きな木なのですが、そろそろ寿命らしく、てっぺんが枯れて、枯れた梢がアンテナみたいにツンと天を指していました。そのアンテナがそっくり無くなっていました。近寄ると、元アンテナだった枯れ木が落ちていました。落ちた拍子に 3 分割されたらしく、それぞれ 3m、1.4m、1.2m の長さで、一番太いところは直径 26cm でした。キツツキがつついたらろう穴がいくつかありましたが、解せなかったのは、まるでノミを突き立てて抜いたような細長い穴がいくつかあることでした。キツツキのくちばしってじつはノミ型？ 家に帰ってから乙女の写真を見返してみたら、2/28 の写真には枯れ木アンテナは確かにモミの木のてっぺんに付いていましたが、3/7 の写真にはアンテナは写っていませんでした。

ラッキーなことにいくらか雪が積もっていたおかげで、今日もたくさんのウサギの足跡を確認することができました。

午後からは森のコースを登って、そのままブナ爺さんまで行き、林道を歩いて下ってきました。

草原の地面がやわらかかったです。春を感じます。おそらく、地面の中の氷が解けて、そこに小さなすき間がたくさんできるので、一年で一番地面が柔らかい時期なのではないでしょうか。

エナガが 5 羽の群でやってきました。尾羽に寝ぐせは付いていません。コガラやゴジュウカラのさえずりが聞こえてきます。ノスリの声が林の向こうから聞こえてきます。と思ったら、パタパタとチョウが飛んで来て、すぐ近くの地面に止まり、翅を広げてじっとしています。日向ぼっこなのでしょうね。よくぞ厳しい冬を乗り越えてくれました。近くに寄ってジッとみました。翅に切れ目が付いています。辛い経験もしたのでしょう。ヒオドシチョウでした。



ヒオドシチョウ

面白いものを見ました。森では多くの木が葉を落とし、葉を付けているウラジロモミが目立っています。そのウラジロモミに雪が降ると、どうなると思いますか。モミの木が傘になるので、モミの木の下には雪は積もらないですね。そこに風が吹いたらどうなりますか。モミの木の風下に向かって、雪が降っていない箇所が楕円形になっていたんです。雪の中、そこだけ型抜きされているように見えました。

【観察報告】

やいたいことがいっぱい・・・

5 月 2 日（土）記事：植原 彰

昨日はほぼ 1 日雨。夕方からは強風を伴った激しい雷雨でした。一転して今日は朝からいい天気。乙女高原に向かいました。林道の所々に落ち葉が堆積しています。昨日の雨のせいで、道路に落ち葉が流れ着いたのだと思いました。林道が植林地の中を通るときは落ち葉はありません。「そっか、落葉樹の下では落ち葉が多くなるのか」と、いったんは納得しましたが、次々と例外が見つかります。落葉樹の下なのに落ち葉がなかったり、日当たりのよい道なのに落ち葉が積もっていたり。改めてよく観察すると、どうも深い側溝が道脇にある所では側溝にたまった落ち葉が道路にあふれ出ている、そうでない所はきれいな道路になっているようです。わかってしまえば、「なーんだ」ですが、やっぱり観察（観て察する）は大事ですね。

さて、春になると、やりたいことがいっぱいです。

まずは林道わきのカエル池に立ち寄りしました。昨日の雨で水は結構溜まっていたのですが、ヤマアカガエルの卵も、以前確認した卵から孵ったオタマジャクシも見ることができませんでした。やはり、恒常的に水がたまっていることがカエルの繁殖にとっては大事な



だと思えます。岩の隙間からタゴガエルの声が聞こえていました。

ヒメギフチョウの幼虫生息地に向かいました。今日からいよいよ調査2年目を開始します。

まずはヒメギフチョウの食草であるウスバサイシンの葉数調査です。「シカがウスバサイシンを食べている」→「だから、ヒメギフチョウが少なくなっている」という意見があるのですが、少なくとも去年の5～7月(ヒメギフチョウ幼虫の成育期)、定期的に調査したところ、ウスバサイシンは減っていません。今年も継続調査し、ウスバサイシンは本当に減っているのか確かめます。

去年設置した園芸用ポールを探しました。ポールの先端にビニールテープを付け、旗のようにしています。見つけやすくする工夫ですが、旗には番号が書いてあり、この番号がコドラート(方形枠)の番号になります。番号の旗ポールは2本ずつあります。2m 折尺を2本使って、ポール2本を底辺とする一辺2mのコドラートを作ります。コドラートの中にある、長径2cm以上のウスバサイシンの葉数を数えます。46枚でした。今回は花期でもあるので、花数も数えました。13輪でした。葉を数えながら一枚一枚めくってヒメギフチョウの卵がないか確かめました。ありませんでした。このような調査をコドラート1から5まで行いました。合計で葉190枚、花52輪、卵塊0でした。ちなみに去年の5/13は葉合計158枚でした。

次に、4/25のヒメギフチョウ卵調査で見つけた卵塊の様子を見ました。2卵塊(14卵と3卵)あったのですが、二か所ともまだ幼虫は孵っていませんでした。残りの時間を全部使って、端からウスバサイシンの葉をそっとめくって卵塊を探しました。移動するときは植物を踏まないように細心の注意を払いました。結構がんばったつもりですが、新たに1卵塊(12卵)しか見つかりませんでした。これらの卵を今後、追跡調査します。昨年は計7卵塊、一昨年は計8卵塊見つかったので、もっと見つかる可能性があります。とはいえ、一人で見つけるには限界があるので、一回は人を誘って、数人で葉をひっくり返して探すのがよいのかもしれない。

乙女高原ロッジに戻って、お昼を食べました。

食後、ロッジの庭と草原でっぺんの富士山がよく見える展望台の2か所に設置してある百葉箱の中からデータロガーを出して、持参したパソコンにつないでデータ回収しました。2026年2月28日から5月2日までの2か月間の乙女高原の平均気温は4.4℃、最高気温は18.0℃、最低気温は-9.5℃でした。ロガーは新たに計測設定し、百葉箱に戻しました。

また、シカ柵の出入り口ドアですが、冬は地面が凍結のため持ち上がって金具が壊れてしまうのを避けるためにチェーンを巻いて閉めていました。今後はその必要がないので、チェーンは結束バンドでドアに固定してしまい、ハンドルをおろしてドアを閉めるようにしました。ドアの下には「玄関マット」を敷きました。これで靴底を払って草原内に外来種のタネを持ち込まないようにしてもらいます。フジザクラ(マメザクラ)の小さな下向きの花が満開でした。



フジザクラ

シカ柵設置が2015年の秋です。それ以降、ドアの開けっ放しによってシカの侵入を許したのは一回だけです。いくら広くて頑丈なシカ柵でも、ドアが開いていたのでは本も子もありません。乙女高原に来たときには注意してくださいね。

最後に、ヤマアカガエル産卵調査です。乙女高原内の3つの調査地とも新しい卵はありませんでした。新卵が無かったことで、今年の産卵調査は今日で終了とします。

焼山峠でもヤマアカガエルの産卵調査をしましたが、新たに1卵が見つかりました。また、ここではスミレも観察しましたが、きれいな真っ白いスミレの花がなんと21輪も咲いていて、うれしくなりました。オオカメノキの1本の木に白い花がこんもりと咲いていて、林の中に浮かんでいるように見えました。

【訪問報告】 伊吹山は花の山(滋賀県)

6月1日(月) 記事：植原 彰

5/29～5/30、自然観察指導員講習会のお手伝いで滋賀県甲賀市に行ってきました。甲賀市には「みなくち子どもの森」という自然観察のためのステキなフィールドがあり、「自然館」というビジターセンター兼博物館もあります。ここが会場でした。

講習会終了後、後泊して伊吹山に行きました。伊吹山には2018年に行ったのですが、そのときは山頂山小屋周辺にシカ糞が普通に落ちていたり、シカ柵はあるのだけれど、しっかりしたものではなく、どう見てもシカが侵入していそうでした。実際にお



2018年の観察報告

花がとても少なく、また、あっても背の低いものばかりでした。伊吹山といえば「花の山」として有名で、名前に「イブキ・・・」が付く草花もたくさんあります。その山がそんな有り様ですから、心配でもあり、気にもなっていました。

富士スバルラインみたいな山岳有料道路を進み、終点の巨大駐車場から歩き始めました。すぐに植生が回復しているのがわかりました。遊歩道に平行してシカ柵が張ってあるのですが、シカ柵の向こうは植物がまばらなのに、柵のこちら側は植物でにぎわっています。まずはほっとしました。

途中、柵の金網をかついで下ってくるおじさんたちがいたので、声を掛けて話を聞きました。シカ柵を設置したおかげで、だいぶお花たちが戻ってきているのだそうです。伊吹山は積雪の深さも有名で(1927年の11.82mは今も積雪量世界一)、乙女高原のようにシカ柵をそのままにしておくとう雪で倒されてしまうので、秋になると倒しておくのだそうです。その作業も大変そうでした。

乙女高原では高槻先生を中心に訪花昆虫調査を行い、シカ柵設置によって草花が戻ってきたら昆虫もにぎやかになったことを明らかにしていますが、伊吹山でも同じことが起きているようです。たくさんのチョウが舞っていました。アゲハやキアゲハ、アカタテハやシジミチョウの仲間もいましたが、ダントツ多かったのがウスバシロチョウとモンキチョウでした。

モンキチョウは産卵シーンが目撃できました。カラスノエンドウみたいな葉に卵を産んでいました。家で調べたら、「カラスノエンドウみたいな」は**イブキエンドウ**というそうです。本には「織田信長がポルトガルの宣教師に伊吹山で薬草園を開かせたときにヨーロッパから薬草についてきて、(日本で)伊吹山のみに帰化した牧草と考えられている」とありました。おもしろいですね。

モンキチョウはオス・メスの見分けが楽です。オスが黄色く、メスが白っぽいからです。オスとメスが「くんずほぐれつ」に飛んでいる姿をよく見ました。よく観ていると、メスがどこかに行きたいのにオスが邪魔をしていて、メスが進路を細かく変えてオスから離れようとするのに、オスが離さない、その様子が「くんずほぐれつ」に見えるようです。時々、別のオスが乱入してきて3頭でくんずほぐれつになることがありました。続けて見ていると、3頭のうちオス2頭がくんずほぐれつになることも多く、この時はオス同士で決着をつけようとしているように見えました。3頭からオス2頭が抜けるとメス1頭が残りますが、そのメスを横からかすめ取ろうと(?)別のオスがさらに乱入することもあり、元のオスがあわててメスのところに戻ったりしていました。また、モンキチョウがウスバシロチョウをしつこく追いかけているのも目撃しました。同じような色なので、きっとメスと間違えているんです。もう、面白くて、一人でニヤニヤしたり、周囲に人がいないときは爆笑したりして眺めていました。

遊歩道を歩いていたら、タヌキのため糞がありました。遠くから見ると、キラキラ光っています。近づいてみると、結構な臭い。そして、キラキラしていたのは甲虫の前翅であることがわかりました。糞虫、それもセンチコガネが多かったようです。伊吹山のタヌキは、どうしてこんなにたくさんの糞虫を食べているのでしょうか。自分のウンチに集まった糞虫を食べているとは考えにくく、伊吹山にたくさんいるシカのウンチに集まる糞虫を食べていたのかもしれませんが。

タヌキのため糞を観察していて、もう一つ面白い発見がありました。遊歩道に石臼が11枚(個?)も埋められていました。おそらく埋めた目的は遊歩道の土が流れるのを防ぐためでしょう。でも使っているのがなんで石臼で、他のもの(たとえば石)でないんだ?と不思議に思いました。帰ってから伊吹山のハンドブックを読むと、伊吹山の北にある曲谷地区では産出する花崗岩で石臼を作っていた歴史があるそうです。

フィールドを訪問するときにはできるだけ時間を取り、ゆっくりと、何回も歩くようにしています。今回も夕方まで時間を取り、遊歩道をうまく組み合わせて駐車場と山頂とを2往復しました。さすがに2往復目の山頂には人影がほとんどなく、山小屋も店じまいの準備をしていました。こんな時にオモシロイことに出会うんですね。山頂から風景を眺めていたら、突然、目の前に大きな大きな猛禽が近づいてきました。まったく羽ばたかずに優雅に、すべるように飛んでいます。イヌワシに違いありません。しかもペアです。イヌワシは私の真横をスーッと通っていきました。途中、何度かヒラリと体を旋回させたので、背面の様子、腹面の様子もよく見えました。最近、主翼の先端がツンツと上に曲がっている旅客機をよく見かけますが(たとえばボーイング B737-800)、イヌワシの翼の先端もそうなっていました。

伊吹山のイヌワシは有名で、たくさんのカメラマンが押し寄せ、中にはイヌワシの生息や繁殖に悪影響を与える行動をとる人がいて、問題になっていることは知っていました。来る途中も、有料道路の3か所で複数の車が止まり、まるでバズーカ砲のようなカメラ・レンズが並んでいました。「帰り道、一番多く車



が止まっているところに駐車して、一緒に観察させてもらおう」と考え、実行しました。そしたら、本当に目の前をイヌワシが通りました。これで2度目の接近遭遇です。2度あることは3度あります。有料道路を下って、途中、大きな駐車場があるところで、また、間近にイヌワシのペアが現れたので、車を止めて、しばらくイヌワシを眺めていました。

帰ってからサイトを見ると、伊吹山には自然再生協議会が立ち上がっていました。委員を見ると滋賀県・岐阜県の職員はもちろん、近隣市町村、環境省や文科省(山頂は天然記念物でもあるので)、保護団体や地元団体、関連企業や学識経験者の名前が挙がっていました。多くの人と組織の総力で伊吹山の自然を再生しようというベクトルを感じました。

T O P I C S

◆町の駅やまなし常設展示

JR 中央線・山梨市駅北口にある「街の駅やまなし」のスペースをお借りして、乙女高原展を開催しています。掲示板1枚と長机1脚だけのミニミニ展ですが、毎回テーマを決めて1～2か月程度で展示替えしてきました。ただいまシーズン56「メマツヨイグサレポート」を開催中です。山梨市駅近くにおいでの際は、覗いてみてください。



◆夏の活動予定

●訪花昆虫調査3

日 時：7月12日(日) 10:00～15:00

集 合：乙女高原グリーンロッジ

持ち物：弁当・水筒・筆記用具・時計・雨具



●ボランティア作業 ～遊歩道の草刈り～

夏休み前に遊歩道の草刈りをして、歩きやすくするボランティア作業です。

日 時：7月18日(土) 9:00～12:00

集 合：乙女高原グリーンロッジ

持ち物：水分、帽子

※刈り払い機持参の方には燃料代を助成します。※手刈りの方にはカマをお貸しします。

●第23期マルハナバチ調べ隊

マルハナバチの動向を知ることは乙女高原の健康診断。未来の乙女高原のための活動です。

～盛夏編(自然観察交流会)～

日 時：8月1日(土) 10:00～14:30

集 合：乙女高原グリーンロッジ

持ち物：弁当・水筒・筆記用具・雨具

腕時計やタイマーなど時間がわかるもの

～初秋編～

日 時：9月5日(土) 10:00～14:30頃

*場所・持ち物などは盛夏編と同じです



●乙女高原 夏の案内活動

毎年恒例になった乙女高原案内活動。花盛りの乙女高原でみなさんとお会いすることを楽しみにしています。10時から15時ころまで、ロッジ前のベンチでお待ちしています。

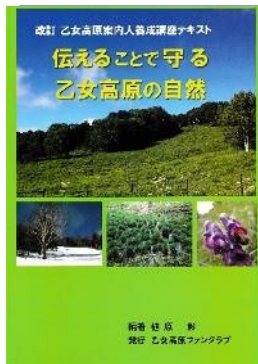
また、乙女高原案内人でこの活動に賛同してくださる方は、ご協力をお願いします。1日だけ、半日だけでも結構です。可能な方は、事務局までご一報ください。

夏の案内人活動日

- ① 7月18日(土)
- ② 7月19日(日)
- ③ 7月25日(土)
- ④ 7月26日(日)
- ⑤ 8月1日(土)
- ⑥ 8月2日(日)

●今号は編集を鈴木辰三、校正を植原彰さん・井上敬子さん・廣瀬晴美さんが行いました。その後、芳賀月子さん・三枝かめよさんの印刷、岡崎文子さんの発送作業を経て、みなさまのもとに届けられる予定です。引き続き200号を目指してがんばりましょう！

乙女高原ファンクラブの刊行物



乙女高原案内人養成講座のテキスト

『伝えることで守る 乙女高原の自然』

(A4判 270頁 2024年)モノクロ。2006年テキストの増補改訂版。頒価1,500円。送料は1〜2冊430円。送金は郵便振込・ゆうちょ銀行で。

乙女高原を歩く際のお供に『乙女高原の自然観察』

(A5判 30頁 2023年)オールカラー。1ページに1テーマ。頒価300円。送料は1冊:180円、2〜8冊:270円。送金は郵便振込・ゆうちょ銀行で。

乙女高原とファンクラブ11年間の集大成『乙女高原大百科』

(A5判 602頁 2013年)乙女高原メールマガジン11年間の中身を編集した厚さ3cmの本。一部カラー。頒価2,000円。送料は1・2冊なら430円。送金は郵便振込・ゆうちょ銀行で。

乙女高原フィールドガイド シリーズ

…欲しい方は事務局までご連絡ください



フィールドガイドⅢ スミレの観察のおともに

『乙女高原のスマイル・ウォッチング』

→在庫切れ

フィールドガイドⅡ

マルハナバチ観察と調査のおともに

『マルハナバチ ウォッチング 改訂新版』

フィールドガイドⅠ

春から夏にかけて咲く草花のガイド

『乙女高原のお花たち 第三版』

いずれもA3判。両面カラー。折りたたみ済み。ポケットに入れられるサイズになっています。

■乙女高原ファンクラブの普通会員になりませんか？

『数は力』という言葉があります。ファンクラブの会員が多くなれば、それだけ乙女高原の保全に対するファンクラブの発言力が増します。まわりの方をファンクラブに『巻き込む』ことも乙女高原を守る活動の一つです。まわりの方にファンクラブをお勧めください。

乙女高原ファンクラブに入会するには…

「入会します 氏名・郵便番号・住所・電話番号」というファックス、メール、手紙等を事務局までお届けいただければ、いつでも、だれでも会員になれます。

- ・入会金も年会費もありません。乙女高原を守る力が1人分、大きくなります。
- ・普通会員には年4回、サポーター会員には年1回、ニュースレターが届きます。

■乙女高原ファンクラブへの連絡先■

【事務局】植原 彰(方) 〒404-0013 山梨県山梨市牧丘町窪平 1110-3

TEL 090-7246-8625 FAX 0553-35-3682 電子メール otomefc@fruits.jp

※会報への原稿や写真等の投稿もこちらにお送りください。

WEB <https://fruits.jp/~otomefc/>

●郵便振込●番号：00220-8-71093 加入者名：乙女高原ファンクラブ

●ゆうちょ銀行●店名：029店「当座預金」番号：0071093 加入者名：乙女高原ファンクラブ

今号は普通会員のみに
お送りしています。



ホームページ



フィールドノート
旧観察ブログ



アーカイブ
旧活動ブログ



乙女高原後援会
フェイスブックグループ



インスタグラム